



HIROKI YOSHIDA

OFFICIAL RELEASE

Race	SUPER GT Rd.8
	MOTEGI GT 250km RACE
Date	2015.11.14-15
Race Track	TWINRING MOTEGI
Team	RUNUP Group & DOES GT-R



路面コンディションに翻弄され、19位で予選を終える。

いよいよ、2015スーパーGTシリーズの最終戦を栃木県ツインリンク茂木で迎えることになりました。前戦オートボリスから2週間という短いインターバルで迎えた今回のレースは、来シーズンに繋げるためにも大事なレースになります。また、今シーズンの集大成出来るように！という強い気持ちをもってこのレースに挑みました。

2015.11.14 FREE PRACTICE (フリー走行 14位 /28台中) WEATHER : WET

通常の公式練習より少し早めの8時50分からセッションがスタートしました。

この日は朝から雨が降る WET コンディションだったのですが、11月に入り路面温度や気温も低かったため、まずは3種類の WET タイヤからテストを開始します。この週末は日曜日も含めて雨予報だったため、予選、決勝ともに適したタイヤ選びがポイントになってきます。

開始20分ほど経過したところで別のタイヤに交換し、徐々にペースもあがってきました。そして田中選手に交代し、WET コンディションのセットアップを進めて貰います。

良いセッティングを見つけてもらったところで再び私に交代し、予選のシミュレーションを行いました。セッション後半は路面の水が減ってきたこともあり、タイムが上がっていきます。

そして最終ラップに1' 58.376というタイムで14番手につけ、公式練習を終えることとなりました。



2015.11.14 QUALIFYING (公式予選 19位 /28台中) WEATHER : WET

午後に入り、再び雨脚が強くなっていく中、公式予選がスタートしました。

公式練習後にサーキットサファリという時間があり、そこで予選に向けた最終チェックを行う予定でしたが、エンジンが始動しないトラブルが発生しそこの確認が出来なくなりました。

トラブルに関してはメカニックさんがしっかり修復してくれたので問題ありませんでしたが、予選に向けたセッティングで確認出来なかった部分をどうするかエンジニアさんと検討した結果、朝の公式練習に比べると雨量が多かったため、私の意見を尊重してもらったセッティングでコースインします。

雨の予選はドライと違い、どのタイミングで雨量が減りコンディションが良くなるかわからないため、15分という時間をフルに使って周回を重ねます。走行開始後、徐々にタイヤは温まり始めたのですが、朝に比べトラクションが足りなくなっていることをすぐに実感しました。15分しかない予選時間の中で元のセッティングに戻す余裕はなく、そのまま走り続けた結果2' 00.699というタイムで19番手になり、Q1敗退となってしまいました。

自分のコンディションに対するセッティングの読みが甘かったことで、Q2に控えていた田中選手にバトンを渡すことが出来ず、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。



SPONSOR





HIROKI YOSHIDA

OFFICIAL RELEASE



SPONSOR



スタート直後の接触でタイヤバースト、決勝は23位に終わる。

2015.11.15 RACE (決勝 23位 / 28台中)

WEATHER : WET → DRY

予選日に続き WET コンディションの中、決勝日を迎えます。

しかし、午後のレーススタート前には雨がやみ、この後の予報でも陽射しが出るという予報になってきたので、各チームスタート時のタイヤ選択がポイントとなります。8分間のフォームアップではスリックタイヤで走行し、そのままスリックタイヤで準備を進めていたのですが、スタート20分前の段階で急に雨粒が落ち始めます。

雨はすぐに小雨となり止み始めたのですが、路面はとてもスリックで走れる状況ではなく、全車 WET タイヤへと交換しスタート進行が進められることとなりました。

WET 路面でスタートすることになったので、予選前のフィーリングが良かったセッティングに戻し、フィーメーションラップを迎えます。しっかりタイヤを温め、いよいよ2015年シーズン最終戦の決勝レースがスタートしました。



スタート直後の3コーナーで1台にバーストされてしまいますが、続く4コーナーで再び順位を取り戻し、走行を続けます。

そしてこの周回の90度コーナーで前を走っていたマシンに多重クラッシュが発生してしまい、その場はうまく切り抜けたものの後続グループは大混乱となってしまいます。その混乱のままレース2周回目へと入っていったのですが、続く1、2コーナー立ち上がりでインに並ばれていたマシンと接触してしまい、右フロントタイヤをバーストさせてしまいました。

ホイールの損傷が激しくタイヤも割れが落ちてしまったのですが、どうにかピットまで戻り、メカニックの方々にタイヤ交換、各部のチェックを行ってもらいます。迅速な作業でコースに送り出して貰いましたが、すでに4周遅れとなってしまい、レースからは離脱してしまいました。それでも、ひとつでもポジションを戻せるよう諦めずに周回を続け、レース中盤に入ったSCのタイミングで田中選手へとドライバー交代します。このタイミングで路面もラインのみですが、乾いてきていたので、タイヤもスリックタイヤへと交換し、残り約25周弱を田中選手がブッシュしてくれました。そのお陰で一時は最後尾まで落ちたポジションも徐々に取り戻し、最終的に23位でチェッカーを受けることが出来ました。

今回のレースは2周目の接触が全てでした。降りた後に冷静に考えると自分が引かなければいけない状況だったと思います。私の役目はポジションをあげることもそうですが、1番はバトンを田中選手に繋げることです。私の判断ミスで危うくピットに戻ることにすら出来なくなるところでした。田中選手はもちろん、チーム関係者の皆さん、スポンサー様に申し訳ない気持ちでいっぱいです。どんなバトルをしていても、「常に冷静に判断し、絶対に接触をせずポジションをあげる」今の自分の足りない部分が浮き彫りになったレースでした。このレースで今季のスーパーGTシリーズは終了となってしまいましたが、この課題は今後のレース活動において、常に意識して走っていききたいと思います。

最後はこのような結果になってしまいましたが、今年1年色々な意味で大きく成長できた1年だったと思います。速さという部分でももちろんですが、ドライバーとしてだけでなく、社会人としても沢山のことを学ばせて頂いたチームでした。そのようなチャンスを下さった田中オーナーをはじめ、チーム関係者の皆さん、スポンサー様各位、本当にありがとうございます。来シーズンのことは全く決まっておりませんが、今年1年で学んだこと、身に染みて実感したことなど、全てを無駄にせず今後のレース活動に活かしていきたいと思っています。

今シーズン本当にありがとうございました。来年もこの舞台で戦えるように自分を高め努力していきたいと思っています。


吉田 広樹

